

#### 第四次宜野湾市総合計画後期基本計画（原案）提言

No.	施策番号	提言事項
1		誰が読んでも同じ解釈ができるような分かりやすい表現で策定していただきたい。
2	全体	<p>福祉の分野全般において、もっと民間に頼る仕組みを作った方がよい。</p> <p>他の市町村と違って市直営の相談窓口が多い様に感じられるので、もっと民間への委託を行いながら福祉現場も中間的な団体を作っていないと、市民相談のカバーが追いつかなくなり、潜在的なニーズが見えづらくなる。</p> <p>障がい者の相談について先日、福祉関係者から不満の声が上がっているとの新聞記事があったが、虐待の問題でも夜間や休日に動ける団体と連携しないと細やかな対応ができない。民間へ委託する事により、市役所職員がもっとできる事があるのではないか。</p>
3	1-（1）	宜野湾市が助成金を付けて育成、発掘した人材やNPO、任意団体などをもっと活用してはどうか。育成はしても活用事例は少ない様に見受けられる。目標1基本施策（1）の施策において、活用できる取り組みも多数あるのではないか。
4		SNSの情報発信をどう周知していくのか検討していただきたい。
5		<p>男女共同参画については、近年大きく考え方が変化してきている。</p> <p>男性か女性かではなく、多様性を尊重するように男女共同参画の考え方をアップデートすべきではないか。</p>
6	1-（2）	総合計画に「性の多様性」の文言を追加することはできないか。第3次男女共同参画計画～はごろもぷらん～の個別計画だけに掲げるのは弱いと感じる。総合計画に組み込んで、アピールしていただきたい。
7		<p>男女共同参画については、多様性を認めることが根幹にあると考えているが、その考え方をきちんと理解したうえで整理をしてはどうか。</p> <p>これから社会を支えていく若者たちに考えさせていくため、中学や高校から教育・啓蒙が大切である。学校教育でも取り入れ、次につながる考えを反映させてはどうか。</p>
8	1-（4）	職員が在宅ワーク・リモートワークできる仕組みを導入してはどうか。実際に宜野湾市内の業者で自治体向けにシステムを開発した企業がある。作業効率の向上につながるのではないか。

No.	施策番号	提言事項
9	2- (1)	第三次宜野湾市地域福祉計画に基づき、宜野湾市社会福祉協議会と連携することが「福祉」という概念は非常に小さく、それを支援するのが社会福祉協議会であり、自治会とあるが、現在、地域で活動するNPOの存在があるため、市民活動(NPO)の文言を入れるのはどうか。それに伴い、指標にNPOの立ち上げ数を入れるなど考えてもよいのではないか。
10		地域福祉の分野において、人材育成は急務であると考え、人材育成に取り組んでどうか。
11	2- (1)	前期基本計画の市民評価について、地域福祉の評価が低かったが、地域清掃後の交流会において住民から同様の評価があり、件数は少ないが意見は反映出来ていると感じた。現在、地域でも独居高齢者の把握が難しく、ケアマネージャー等に繋がっている方は良いが繋がっていない方をどのように支援していくかが課題と考える。自治会・各班レベルで把握し、市レベルで出来ることと地域の力で出来ることを明確にし、地域の力を育てることが住みやすさに繋がると考える。
12		ここ数年、企業、NPO、専門職や様々なセクターが関連する包括的な地域社会を作っていくという流れがあるので、縦割りではなく地域や本人の属性に合わせた社会づくりの方向性や施策を検討してはどうか。
13		市民や自治会だけではなく、市内企業の皆様も社会貢献や地域づくりに興味を持っていることから、事業として企業と連携していく地域づくりも検討していただきたい。
14	2- (2)	ここ数年で市の待機児童は大幅に改善されており、評価してよいのではないか。今後は、小規模保育所等からの受入れを安定して確保することが、大きな課題であり、公立保育所や認可保育所の役割が求められる。 後期基本計画の中で、保育士等の処遇改善が削除されているのが、大変心配である。
15		認定こども園等が増えてきており、待機児童は解消されてきているが、いまだ子育てしづらいという声も多い。 子育て支援のため有給の看護休暇など実施している市内企業等に対し表彰するなど、市民団体(企業)との連携についても総合計画に表現できないか。
16		児童虐待・DVの防止根絶をめざすためには人材育成と人員確保が必要であると考え。市民団体などと連携強化して取り組んで欲しい。
17	2- (3)	女性の相談件数の増加に関する課題はあるが、その施策が少ないように感じる。沖縄県や他自治体においても同様だが、相談員が非正規のために、専門性の確保・維持が非常に難しくなっている。その専門性の確保・維持という観点から計画に記載できることはないか。
18	3- (1)	令和元年度に「宜野湾市キャリアパスポートの運用や活用について」の方針が示されているので、引き続き追記することが望ましいのではないか。
19		SDGsについては、施策全体に記載があるので、例えば小中学校生へSDGsの勉強を行う(仕組みや何をすればいいか等)ことを主な取り組みに入れてはどうか。

No.	施策番号	提言事項
20		目指すまちの姿に記載されている「未来を担う人間力の育成」について、人間力という表現が抽象的である。一般市民が読んでわかりやすい文言や記載方法を検討していただきたい。
21	3- (1)	「公立幼稚園が公立小学校のつなぎ止めとなる」ことについて、近年では市内の5歳児は保育所・認定こども園・公立幼稚園と様々な施設で教育を受けている現状があり、公立幼稚園の利用の割合も変化していると感じている。 就学前教育施設でのつなぎ止めが公立幼稚園という明記は、現状にはあっていないのではないかと感じるので、「公立幼稚園が中心になり」などと明記してはどうか。 また保幼小連携は同じ教育施設である保育所などの児童福祉施設も意味するものであり、また現場の関係者の連携への関心の差を埋めるためにも人事異動などで連携の状況が変わることの無いよう、教育委員会と組織的連携を図る必要があると感じる。
22		スクールソーシャルワーカー（SSW）について、配置は重要と考えるが現状は常駐ではない。安心して働ける環境づくりも必要だと、「担い手のサポート(担い手の育成)」などの文言追加や目標指標の設定を検討してはどうか。
23		「学習支援員配置等による全国学力・学習状況調査（小算/中数）正答率の全国との差」は誤解を招いてしまう。学習支援員の配置においては、学校現場では大変助かっているが、教育施策全体としての結果であるので、「学習支援員配置等」は全部省いたほうがよいのではないかと感じる。
24	3- (2)	ギガスクール構想の部分において、市民が分かりやすい表現にしてはどうか。 ・「1人1台端末」を「一人1台PC 端末」 ・「学校業務の見直しなど、働き方改革に関する取り組みを推進します。」を「学校業務の見直しなど、働き方改革を推進します。」
25	4- (1)	サンゴ礁、サンゴの植樹活動支援について追加を検討していただきたい。 観光客の誘致につなげられると考える。
26		サンゴにおける観光については、他自治体が先行している。他自治体を見てみると、サンゴで観光客を誘致したが、結果的にサンゴに悪影響を及ぼしている。 これから施策を検討していくのであれば、他自治体のように本末転倒になるのではなく、持続可能な施策として考えてはどうか。経済が主語ではなくサンゴが主語となるような取り組みを検討してはどうか。
27		昨年度、アトムホームスタジアム（市立野球場）に大型スクリーンを設置しているので、多種スポーツ大会の分野においても大型スクリーン活用のイベント関係も考えていただきたい。
28	4- (3)	地域商店街の活性化について、インバウンドの影響はあると思うが、今後、新型コロナウイルス感染症も収束しないなか、非接触媒体が増えると考ええる。キャッシュレス決済などの普及率をあげることを目標値設定としてはどうか。
29	5- (1)	防災は多岐にわたる分野で取り組みが必要なため、防災対応職員の増員が必要ではないか。また、協力機関との連携、避難所の確保は急務であると考ええる。

No.	施策番号	提言事項
30		台風時は FM ラジオで台風情報を 24 時間発信している。 防災情報の発信などで市に協力していきたい。
31	5- (1)	市の防災無線は、受信しづらい地域がある。常時聞き取れる状態となるよう要望する。
32	5- (4)	大学の授業で SDGs の取り組みを行っており、各市町村の課題を挙げているが、宜野湾市は安心して水が飲めないなど水質汚染の意見が多い。水質汚染問題に対し市としてはどのように取り組んでいくのか。 PFOS に関する問題について、市の飲み水はどこからきているかということも整理が必要。市民に不安を与えないような記載を検討していただきたい。
33	5- (6)	高齢者、障がい者等との意見交換の場において、交通移動についての課題が多く出てきている。他市町村では、コミュニティバスなどが運行されており、移動問題は最重要課題だと考える。次期計画では、コミュニティバスの運行等の事業実施ができるか。 予算については、市の中心部に普天間飛行場があるがゆえに派生する課題なので、基地対策費として国からの補助金等で確保できないか。
34		市民のバスの利用の意識は低いと聞いているが、高齢者の免許返納・健康増進の点からも地域へ出向くことを推進し、他市町村で行われているコミュニティバスのような市のバスが運用出来ないか。バス停ではなく各公民館経由等の経路の工夫で利用しやすい方法や予算に無理がない利用率を高める方法を検討してはどうか。
35	5- (8)	火葬場については、身内に不幸があった際、火葬場の予約に時間がかかるなど、市民の多くが不便を感じている。建設場所、建設費用等多くの課題があると思うが、早めに火葬場の建設が行えるように取り組んでいただきたい。
36	6- (2)	国や県との連携も必要ではあるが、跡地利用の核となる商業施設（例えばランドマーク的存在）を取り込むような活動が必要ではないか。

## 第二期宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）提言

No.	施策番号	提言事項
1	基本目標 ③－②	<p>日本の人口が減少傾向にあり沖縄県、宜野湾市も例外ではなく海外からの労働力に頼る時代に、今後変化していく事も予想されるなかで、保育、教育でも外国にルーツのある園児、生徒、保護者も今後増えていくと予想される。</p> <p>外国にルーツを持つ子ども、保護者を受け入れる際に国の文化や宗教の違いも沢山あるなかで「ここは日本だから日本のルールに従ってもらおう」ではなく、課題はたくさんあるが、「日本の文化に沿った保育、教育」、「自分の国の文化も取り入れた保育、教育」を子ども、保護者が選べるのが重要であり、保育及び教育を行う者に求められてくると考えるため、外国人の方も子育てしやすい多様性のある環境づくりを市としても取り組んで行く必要があるのではないか。</p>
2	基本目標 ④－④	<p>子ども達の間環境教育という点から環境教育講習会に子ども達の講習会の計画ができれば良いと感じる。他市町村などで行われている買い物ゲームなどからゴミ問題を考えるなど、理解しやすい市民環境団体を利用した講演会などを計画出来ると良いと感じる。</p>
3		<p>地域リーダー育成に関する取り組みに関して、参加者については毎回同じメンバーとなることも少なくない。若い世代や子育て世代、働き世代にも働きかけるようにしていただきたい。それには企業や大学での教育環境等を含めた連携が必要と考える。</p>
4	横断的 ①－①	<p>SDGSにおいて、「ゴール 17」が一番重要だと考えるので、地域づくりについてはもっと重要視してもよいと考える。また、目標についても多様な人々が暮らしているので、出産や子育てにこだわりすぎても良くない。宜野湾市で暮らしてみたいという気持ちが持続可能な社会を実現していくと考える。</p> <p>リーダーを作ってもそれだけで終わってしまうこともあるので、一つ一つの小さな団体へ経費をかけるのも悪くはないが、センターなどを立ち上げて、住民がどのように参加できるか、話し合いができる場づくりを検討してはどうか。</p>
5	横断的	<p>Society5.0 について、見守り自販機だけではなく、他にも施策があると良いと感じる。</p>
6	①－②	<p>Society5.0 の項目については「データサイエンス教育」という文言も含めた方が良いと考える。</p>

第四次宜野湾市総合計画後期基本計画（原案）体系図

施策番号	目標	基本施策
1-（1）	目標1 市民と行政が協働するまち	（1）協働のまちづくりと開かれた行政の推進
1-（2）		（2）男女共同参画の推進
1-（3）		（3）国際・国内交流の推進
1-（4）		（4）効果的・効率的な行財政運営の推進
2-（1）	目標2 健康で、安心して住み続けられるまち	（1）地域福祉の推進
2-（2）		（2）子育て支援・子育て環境の充実
2-（3）		（3）児童虐待・DVの防止と被害者支援の強化
2-（4）		（4）障がい者（児）福祉の充実
2-（5）		（5）高齢者介護・福祉の充実
2-（6）		（6）生活困窮世帯への支援・労働福祉の推進
2-（7）		（7）健康づくりの推進
3-（1）	目標3 文化を育み、心豊かな人を育てるまち	（1）未来を担う人間力の育成
3-（2）		（2）地域に開かれた学校づくりの推進
3-（3）		（3）地域活動を通じた学びの充実と文化の継承
4-（1）	目標4 地域資源を活かした、活力あるまち	（1）観光・リゾート産業の振興
4-（2）		（2）コンベンション支援機能の充実
4-（3）		（3）地域商店街の活性化
4-（4）		（4）商工業・情報通信産業の振興
4-（5）		（5）企業立地と多様な働き方による就労の促進
4-（6）		（6）都市農業・漁業の振興
5-（1）	目標5 安全・快適で、持続的発展が可能なまち	（1）防災及び救急・消防体制の強化
5-（2）		（2）交通安全・防犯対策の強化
5-（3）		（3）環境保全と循環型社会の形成
5-（4）		（4）公害・環境衛生対策の推進
5-（5）		（5）快適な生活環境の整備
5-（6）		（6）交通ネットワークの整備
5-（7）		（7）上・下水道の整備
5-（8）		（8）公園・緑地及び墓園等の整備
6-（1）	目標6 平和をつなぎ、未来へ発展するまち	（1）基地問題への対応
6-（2）		（2）基地跡地利用の推進
6-（3）		（3）平和行政の推進

第二期宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略（原案）体系図

施策番号	基本目標	基本的方向
①—①	基本目標①	基本的方向① 魅力ある人材育成モデルの確立
①—②	魅力ある人材と産業を育成し安定した雇用を創出する	基本的方向② 人材が活躍できる産業の育成・充実
②—①	基本目標②	基本的方向① 地域資源を活かした観光・交流の促進
②—②	観光・コンベンションで多様な人との出会いと交流を促進する	基本的方向② スポーツコンベンションの振興による交流機会の創出
③—①	基本目標③	基本的方向① 教育・保育と子育て支援の質の向上と安定的な供給
③—②	市民の希望実現に向け安心して結婚・出産・子育てができる	基本的方向② 健やかで切れ目のない子どもの成長支援
③—③	環境を整える	基本的方向③ 子育てしやすい社会環境の整備
④—①	基本目標④ 市民が健康で安心して住み続けられる、時代に合った都市をつくる	基本的方向① 市民のための跡地利用の推進
④—②		基本的方向② 全ての市民が心身ともにいきいきと暮らせるまちづくり
④—③		基本的方向③ 安全な都市のくらしをまもる
④—④		基本的方向④ 次世代に誇れる持続発展可能な都市の形成
④—⑤		基本的方向⑤ 男女がともに能力を発揮するための意識と環境づくり
横断的 ①—①	横断的な目標①	基本的方向① 多様なひとびとの活躍による地方創生の推進
横断的 ①—②	多様な人材の活躍を推進する	基本的方向② 誰もが活躍する地域社会の推進
横断的 ②—①	横断的な目標②	基本的方向① 地域における Society5.0の推進
横断的 ②—②	新しい時代の流れを力にする	基本的方向② 地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり